

## ワクチン接種を終えて思うこと（もうワクチンに頼るしかない）

篠崎 辰夫

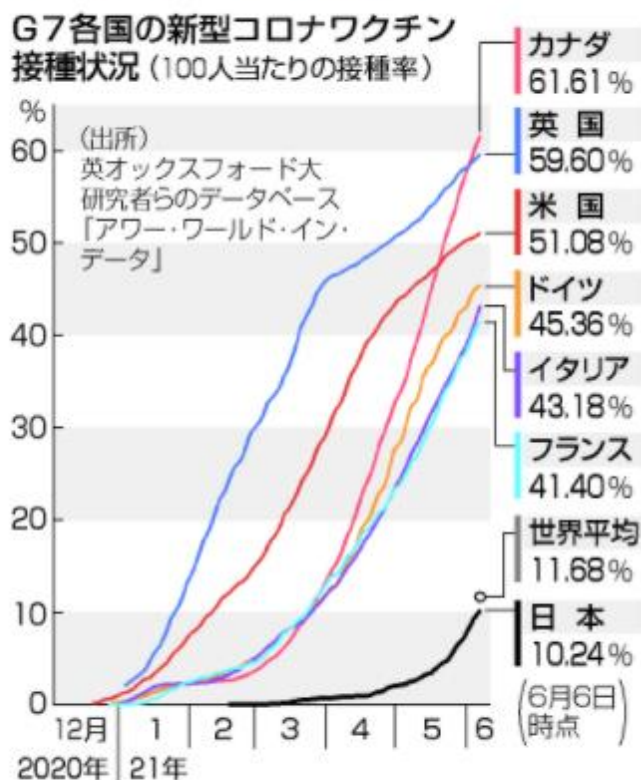
6月6日（日）2回目の接種が無事終了した。心配していた副反応も、接種部分の痛みが1回目より多少強い程度で問題なかった。後期高齢者の優先接種のおかげで、予約から接種まで早期に、順調に終わることが出来た。これまで後期高齢者のメリットや恩恵はほとんど感じていなかったが、今回初めて恩恵を受けたような気がする。

ただ、次の65～74歳枠の妻の予約で大変苦勞した。対象者が増えたためか、ネット予約で開始の8:30丁度を開いたが、もうアクセス集中でつながらない。途中から電話予約と並行し、右手でパソコンのキーを左手でスマホのキーを叩き続けるが両方ともつながらない。これを断片的に夜11時まで続けたがダメ。いったんあきらめ就寝した。その後夜中トイレに起きた2時頃にパソコンを開いたらすぐつながり、なんとか最後の枠がいくつか残っていて予約することが出来た。

このような予約を高齢者に強いるのは大変酷なこと。クレームが殺到しているに違いない。ある市では、ネットや電話ではなく、あらかじめ接種希望（接種場所や日程等）を郵送で紹介し、市で予約を指定する方式をとっているところもある。高齢者にはこの方式がいいかと思う。

ところで、ここにきてようやくワクチン接種が加速しており、政府はその成果を強調しているが、そもそもスタートが遅い。下図のようにG7各国の接種率では最下位。

### G7各国の接種率 日本は10.24%と出遅れ



## ワクチン接種遅れの元凶は、誰なのか・・・。

今このキーワードが、週刊誌やネット上をにぎわしている。それはそれとして、ようやくワクチンが潤沢となりいざ接種の段階になって、医師や打ち手が足りない、場所が確保できないなどバタバタ大慌てしている。ここにきて企業や大学等の集団接種が実現し加速しているが、本来なら今年の段階で計画しておくべきこと。

そもそも東京五輪の延期が1年にした理由のひとつに、**ワクチン接種が進むから、とされていたのに、その接種の道筋が全く立てられていなかったことになる。**この1年間いったい何をやってきたのだろうか。調達だけやってきたのか。信じられない。

この遅れはもう取り戻せない。専門家からもワクチン接種が2か月早かったら、今の東京五輪のゴタゴタもなかっただろうと言われている。これまでの一連のコロナ対策でも、後手後手、朝令暮改、思いつき、成り行き任せ・・・と厳しく指摘されているが、一事が万事この始末。これでコロナに打ち勝てるのだろうか。

新型コロナ対策には、東京五輪という壁が大きいのしかかっている。今さら過去のことを言っても仕方がないが、昨年五輪延期を決める時、2年延期が大勢を占めていたが結局1年延期となった。この経緯が冒頭の「ワクチン接種遅れの元凶は誰なのか」につながっているらしい。

**あの時1年でなく2年延期にしていたら**、と思うと残念でならない。その後も感染者が増加して緊急事態宣言が続き、開催が危惧されても全く見直しされなかった。2年延期だったら、こんなに無理せず苦しまず、完全な形での「復興五輪」「コロナ克服五輪」が開催出来ただろう。一部の関係者の思惑や拘り、自己目的がこの1年延期につながったとしたら、その代償はあまりにも大きい。

首相は「国民の命と健康を守る」と言い続けているが、具体的なことは何も語らないため、「自分自身を守る」としか伝わってこない。ここにきて専門家や関係者の間で、五輪後を見据えての責任逃れのアリバイづくりや責任のなすりあい押し付け合いのような言動が始まっている。皆さんそれぞれしっかりと保身に走っている。おそらくまた誰も責任を取らない。もう我々はワクチンに頼るしかない。

東京ではこのところまた感染者が増加しリバウンドの兆候が出ている。そんな中もうすぐ東京五輪を迎える。五輪開催の最中に、変異株による第5波が東京大空襲や原爆のように襲ってくるかも知れない。もう取り返しのつかないところまで来てしまった。五輪後がえらいことになるかも知れない。そうならないよう**運を天に任せる**しかない。

(2021/06/25)